



金森 55周年

ジェームス・

神戸市中央区波止場町無番

3月8日(土)

open 17:00 s

charge 4,000

音楽生活55周年の記念ライブ。

音 「ポスター、どうしよう？」

「フライヤー、どうしよう？」

旧友の二人に電話する。

森英二郎さん（版画）と日下潤一さん（デザイン）。

大事な何かをする時は、いつも決まって、このコンビ。

「ポスターにもなって、フライヤーにもなって」

注文は、それだけ。

あとは、すべてお任せ。

信頼という言葉は、我々三人の為にある。

届いた。

ポスターなのかフライヤーなのか、そんな事はもうどっちやでもエエ、な美しい印刷物だった。

「額に入れて飾ってます～」

そんな声を何人もの人達から聞いて、嬉しがるかる。

たかがフライヤー、されど、ポスター。

55周年なシンガーにとって、その絵とデザインは、仕事を越えた、我々三人の愛と友情の物語に思えたのだった。

勘違い、かな？

ポテチン。

両面カラーで、片面は日付、会場などの文字入り。

片面はひろげると文字なしの絵のみ。

二つ折りのチラシの案は横長の絵を生かすため。

金森幸介
シンガーソングライター



ぼくの古い古い友人のシンガーソングライター金森幸介くんのデビュー55周年記念のライブのチラシの絵を描きました。50周年の時もチラシの絵を描きましたがその時はコロナ禍で中止になりました。今回の絵はこれまた古い古い友人のグラフィックデザイナーの日下潤一さんが、歩いている幸介はどうか、影がビャーッと伸びて裏面に回るとか、と出てきたのでそんな絵を描きました。それで出来てきたチラシがこちらです。

なんか訳分かりませんが面白いチラシになりました。おかげかどうか分かりませんがライブのチケットはSold-Outやそうです。

日下さんに、なんか幸介くんの歌の歌詞を絵の中に入れてくれへん、と言われてたのでぼくの好きな「もう一人の僕に」の歌詞を入れられました。

森英二郎
イラストレーター

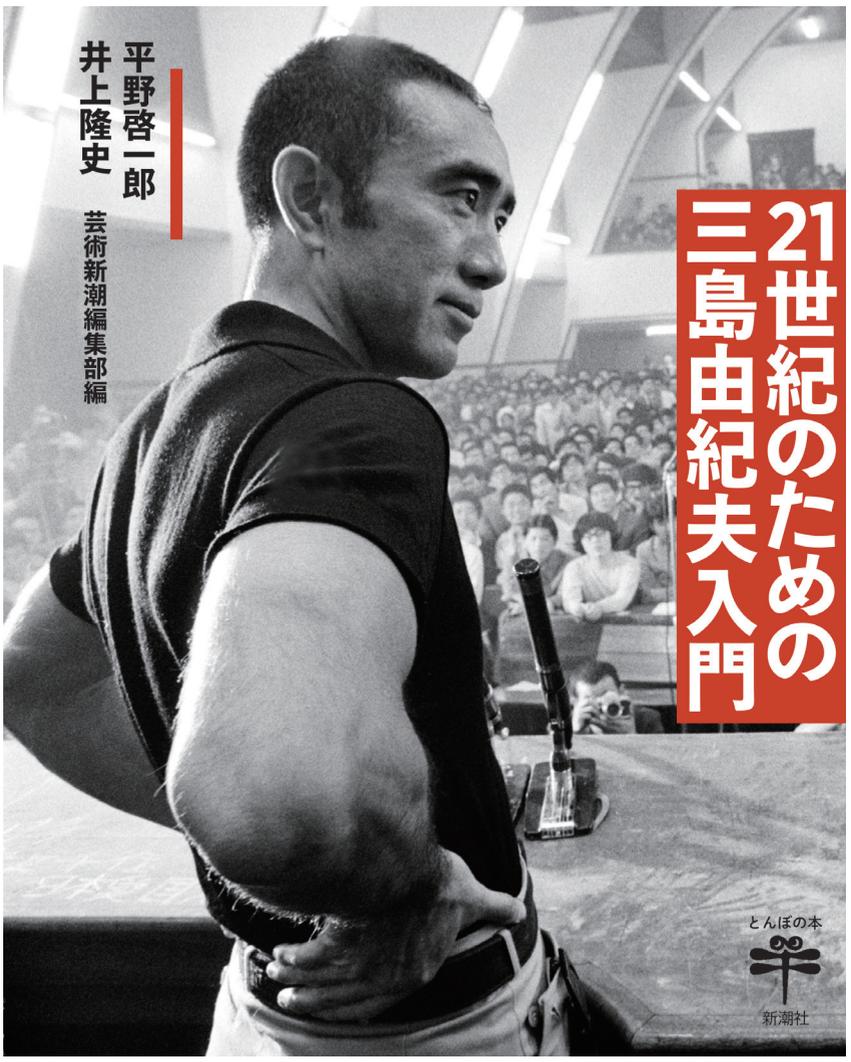
金森幸介55周年記念日ライブ
チラシのデザイン

オリジナリ

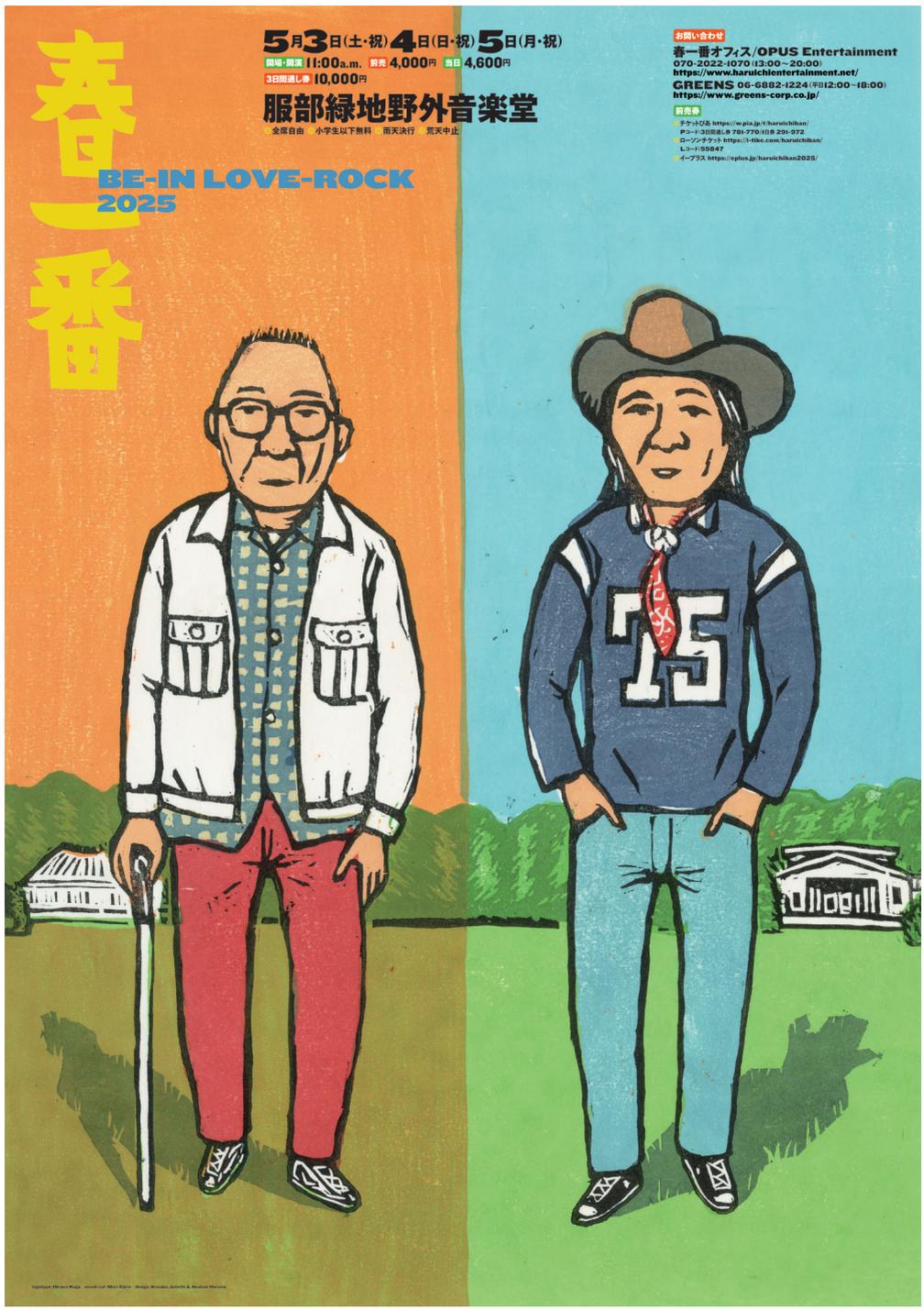
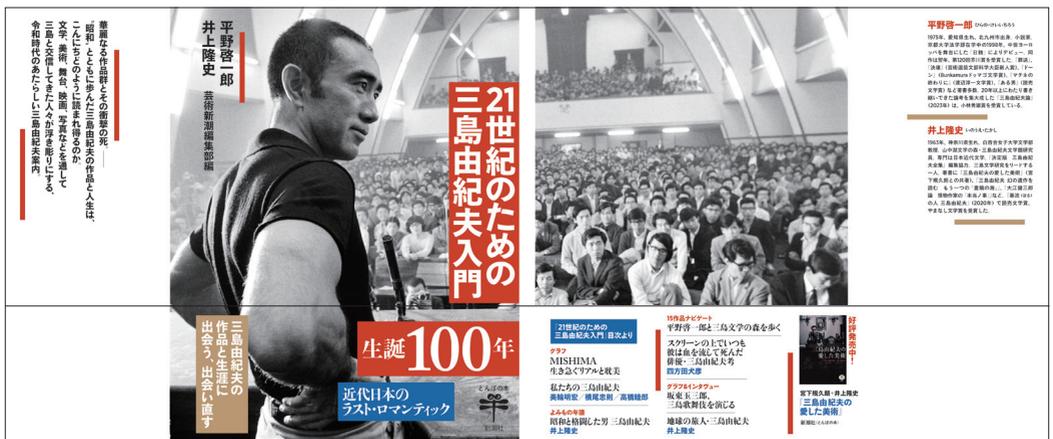
38

Originally
April 2025

『21世紀のための三島由紀夫入門』
 (新潮社 とんぼの本 / 2月27日発売) のデザイン

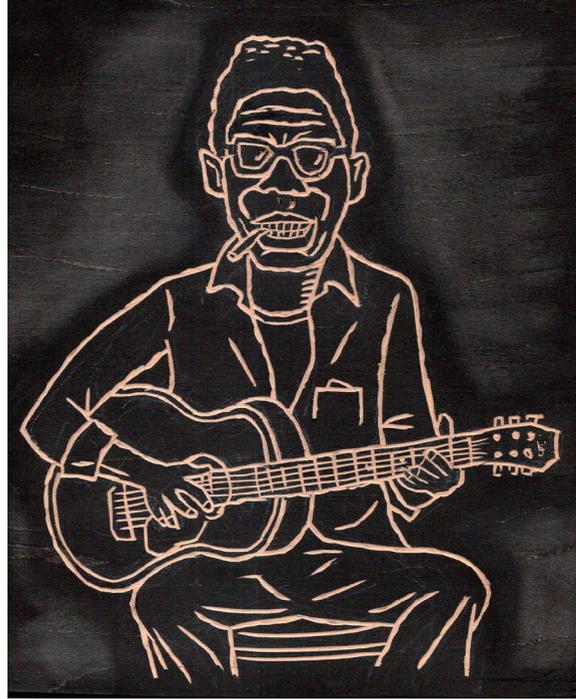


カバー表1 / 下はカバーと帯全体



B2ポスター 版画=森英二郎

春一番 BE-IN LOVE-ROCKのデザイン



ライトニン・ホプキンス

Lightnin' Hopkins
1912-1982

おにおし・よしたか 1974年、京都府生まれ。京都嵯峨嵐山にある古書店 London Books店主。文芸書を中心に、人文書、美術書、絵本、サブカルチャーなどを扱う。観光客と地元の人に受け入れられ営業を続ける。



坪内祐三
『古くさいぞ私は』
晶文社／2000年

森英二郎 思い出のクリフォード ㊶

高 校生だった1960年代はジャズばかり聴いていました。69年にアメリカ留学から帰ってきた兄の荷物の段ボールの中にロックのレコードがいっぱい入っていた。クリームにドアーズ、サンタナや、バッファロー・スプリングフィールドなんかが、かっこええ、と思いました。そんな彼らの音楽のルーツのひとつが黒人のブルースらしいと知って、それからはブルースのレコードばかり買って聴いていました。その中でも今回のライトニン・ホプキンスは、30年代から地元のテキサスでブルースを歌っていて、レコードも出したのに根っからの放浪癖で消息不明になり、59年になって再発見されてレコードを出して一躍有名になった、といういかにもブルースマンらしいエピソードがあって好きでした。

もり・えいじろう 1948年、京都府生まれ。関西のタウン情報誌「プレイガイドジャーナル」の表紙、野外コンサート「春一番」ポスター、『荷馬』と東京『断腸亭日乗』私註』（川本三郎 著）、絵本『おとうさんのうまれた うみべのまちへ』など。

日日読書 大西良貴

35

London Books
616-8366 京都市右京区嵯峨天龍寺今堀町22

乱 読期と言うべき二十代初めにハマったのが、氏のデビュー作『ストリートワイズ』と第二作『シブい本』。学術的な第三作『靖国』を挟んで、続く『古くさいぞ私は』は己が読書術を語るヴァラエティブックで、幅広い目線と滋味深い嗜好を楽しめた。神保町との長い付き合い、文庫本に夢中だった学生時代のこと、目的によって使い分ける図書館の利用法など、当然夢中で読んだ。その後も氏の新刊は出る度に買い続けたが、この三冊は特別自分の気持ちに馴染んでる感じがする。

本書の「読書する日常」というエッセイで、氏は自分にとって読書は娯楽ではなく、日常そのものだと書いている。ステキな言葉だと感じ入った。即効性を求める読書ではなく、寄り道、遠回りの面白さを味わうところに惹かれた。

今読み返すと、文章にはつらつとした感じがあって案外若さを感じる。内田魯庵、石井研堂などシブい本ばかり出てくるが、収録文のほとんどは、四十になるやならざる頃に書かれたものだったのだなあ。

ピンク

映画でヤクザ役を演じた時、丸坊主にして両眉も剃った。それで大学の授業に出た。母も祖母も、こんな子に育てた覚えはないと嘆いた。やがて就活の季節になり、母は「大阪市役所だけでも受けてくれ」と懇願した。母も亡父も市役所職員だった。でも地方公務員には絶対なるまいと決めていたので受けなかったし一切就活もせず、そのままズル（映画の沼）に引き摺り込まれた。会社員の極意は「無能な上司に我慢出来るかどうか」らしい。僕には無理だ。

ローナン・ファロー『キャッチ・アンド・キル #No.100を潰せ』（文春文庫）はハリウッドのプロデューサー、ハーヴェイ・ワインスタインの、二十年以上表沙汰にならなかつた無数のセクハラ・レイプ事件を取材、ニューヨーク誌に掲載されるまでの顛末が詳細に綴られている。

ファローは米ネットワーク局大手NBCのジャーナリストだから当然放送目的で取材を始めるが、結局紙媒体での発表を余儀なくされる。それは会社組織の防衛を懸命に計る、NBC幹部らの自己保身せいで。恥も外聞もなく繰り返される卑劣な発言や行動に呆れ果ててしまう。

ファローはウッド・アレンとミア・ファローの子（ミアが「フランク・シナトラの子かも」と口走ったそうだが、アレンと似ても

N'S COLUMN 40

西岡琢也

せまじきものは宮仕えなり

似つかぬ美丈夫。写真を一見あれ。義姉がアレンから性的虐待を受けたと告発している。だからファローの立場は（利益相反）、「父を憎んで性暴力撲滅運動に身を投じたと思われるぞ」と彼の上司は取材にブレーキをかける。そんな局内外からの妨害や嫌がらせはファローや被害女性を萎縮させる。特にワインスタインが巨額の金で雇ったイスラエルのモサド（捕えて殺す）、もみ消しのためのネタを買い入れ執拗に攻撃して来る。ファローらをハダカにして恥部や弱点をフレームアップ、ワインスタインの犯罪から目を逸らさせるのだ。被被害女性はトラブル時に一様に（秘密保持契約）を結ばされ（暗躍するワインスタインの弁護士たち！）口外厳禁、多額の金で退職に追いやられている。ファローは根気強く女性たちを説得、インタビュー撮影を行い、並行して入念な裏付け作業で証拠固めをして行く。しかし突然NBCの上司は取材休止を命じる。逐一相談して来たにも関わらずだ。仕方なくファローは発表の場をニューヨーク1誌に求め、積年の醜悪な蛮行を公にする。

直後NBCは「材料不足で放送出来なかつた」と弁明、ファローには誠首をチラつかせながら口裏合わせを強要する。組織防衛と自己保身に走る会社幹部たちの行為は醜いが、本人たちは必死だ。なぜならNBC内部でも山のようなセクハラ事件を長年隠蔽して来たからだ。あろう事かNBCはそれをずっと、ワインスタインに脅かされ続けていたと分かって来る。呆れるね、まったく。いやいや、至るところに（エロ親父）っているんですねえ。データメな関税攻撃を連発するアメリカ大統領の名前も、ちよくちよく出て来ますよ。ワインスタインがアウトであつちがセーフってわけにはいかないと思うんだけどなあ。

髪は短く、ネクタイをしめたやつらの言うことは、当てにできない

佐藤博作詞

『バッドジャンキーブルース』

昔キー坊（上田正樹）も歌ってたっけ。

にしおか・たくや 1956年、京都府生まれ。脚本家。代表作に『ガキ帝国』『TATTOO（刺青）あり』『沈まぬ太陽』『はやぶさ〜遙かなる帰還』、TVドラマ『京都迷宮案内』シリーズ、『返還交渉人』など。2026年『幕末ヒボクラテス』公開予定。

土月
ハロカキ
ニシキ



ガッパ

一〇二四年十二月三日、韓国で非常戒厳令がしかれたというニュースが入った。憲法を停止して社会を軍法下に置く。それが非常戒厳令だ。

当初は、ネット上を徘徊するタチの悪い冗談だと思っただ。あるいはドラマの宣伝？ オールソン・ウェルズの戦前のラジオドラマ「火星襲来」みたいな。四時間ほどで解除されたと聞いて、逆にほんとうだったかと思わなかった。

韓国大統領の与党は議会の少数派だ。多数野党は大統領の政策に「からり」まで反対、そのうえ政府関係者をつぎつぎ弾劾して国会も人事も固着して動かない。政治とは交渉と譲歩、主張と妥協なのだが、交渉や妥協を絶対にしたくないという野党の態度に尹錫悦大統領が文字通り「切れた」。それにしても非常戒厳令とは。とても先進国とは思われない。

私が初めてソウルへ行ったのは一九七九年の暮れ、しんしんと冷える真冬の観光旅行だった。

ダンスができない。楽器ができない。運転免許がない。そのうえ外国へ行ったことがない。これでは現代人とはいえない。ひとつひとつつぶして真人間にならなくては。三十歳になったばかりの私はそう考え、手始めが韓国行きだった。

寒いだけではなかった。当時の韓国は戒厳令下、航空券の安さにつられただけの私は、外国の政治状況にまったく無感覚だった。しかし強烈な反日意識と聞く韓国で、いじめられたり差別されたりしないように、旅行前に韓国語を少し習った。といっても地下鉄駅名のハンゲルを解読する程度だ。

ソウルの街路では、吐かれた痰も嘔吐物も凍っていた。交差点の、土嚢を積んだ急ごしらえの哨所には銃を持った兵士が立っていた、しかし人通りは少なく、濛々たる湯気の食べ物屋は、夜間外出禁止令の十時近くまで混んでいた。

二カ月前の七九年十月二十六日夜、内輪の宴席で朴正熙大統領がKCIA部長に射殺された。KCIA部長は犬猿の仲の大統領警護室長を撃ち、ついで大統領を撃った。しかし彼がもくろんだクーデターは不発だった。事件の処理で力を得たのが保安司令官だった全斗煥陸軍少将で、彼が中心となって画

策した十二月十二日のクーデターは成功した。

そういう報道には接していたものの、クーデター二週間後の観光旅行という見当はずれで、戒厳令下の日常をいちおう経験したことはなかった。

当時の韓国は中進国段階で、現代韓国の少年少女のような垢抜けたタイプはいなかった。男性なら、囲碁の趙治勲の若い頃みたいな顔をしている人が多く、女性ではちりちりパーマが大流行していた。

その十八年前の初夏、やはりクーデターで政権を握った朴正熙は、日本の明治維新に範をとり、コリアでは避けがたい親族姻族の権力者へのたかりや利益供与を許さなかった。そうして北朝鮮と対峙しながら「島国型発展」をめざす「開発独裁」にある程度以上成功した。それでも十八年の権力は長すぎた。

「乗りかかった舟」という。乗りかかったのは「泥舟」だったかもしれないが、私はそれから二十年近く、コリアとつきあうことになった。その動機はコリアの変なおもしろさと、せっかくながら始めた言葉の勉強を捨てるのは惜しいというケチな精神であった。

非常戒厳令!?

関川夏央 昭和残照

三十

新潮社・2022/引用の一部は省略しています

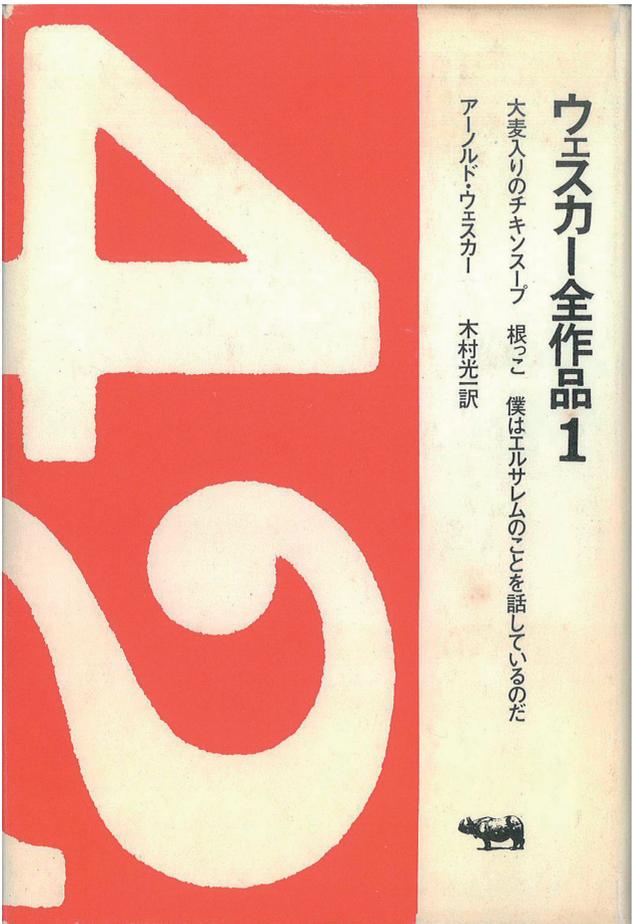
この本に決めたのは、津野海太郎さんの『かれが最後に書いた本』の巻末の「平野甲賀の青春」を読んだからだ。ウェブ版「考える人」の連載の単行本化の二冊目。最後の二章は、連載とは別に書かれた2021年に亡くなった小沢信男と平野甲賀への追悼文。「一九六四年刊行の『ウェスカー三部作』から数えて四十年(注:この本が2022年だから計算が合わない)。たくさんの仕事だか遊びをやったけれども、そのほとんどすべてが平野ぬきではカタチにならないものだった。若くしてそんな男と出会う運が私にはあった。ラッキーな人生だったのである。」としめくくられている(同書)。

私には平野甲賀さんの装幀といえませんがこの本になる。文字だけのデザイン。2色。赤に白抜きの数字はクラレンドン。表4にウェスカーのモノクロ写真。色々細かい分析の前にはできるだけ大きく書影を紹介しておきます。(つづく)

メモランダム本のデザイン 29

ウェスカー三部作 その1

日下潤



ウェスカー全作品1

大麦入りのチキンスープ 根っこ 僕はエルサレムのことを話しているのだ
アーノルド・ウェスカー 木村光訳

「二九六四」

年春、木村光一訳『ウェスカー三部作』という戯曲集、それが私のつくった最初の単行本「まず直面したのがデザイナー問題。当時の出版社では、おおくの場合、本の装丁は編集者がじぶんでやる」「自分とおなじ齢で、まだ無名の平野甲賀といっしょにやってみよう。晶文社が刊行するすべての

本を、かれひとりにまかせる。そう提案してみたら、意外にもあっさり了承してくれた。「スズメの涙ほどの報酬でしたがね、平野もよろこんで引き受け、さっそく手がけたのが、『ウェスカー三部作』私だけでなく、平野もまた、彼の生涯にわたる装丁のしごとを、この一冊からはじめたことになる。」(かれが最後に書いた本)津野海太郎

◆この連載が単行本になりました
関川夏央 絵・南伸坊『昭和的』
(春陽堂書店) 4月30日発売

せきかわ・なつお 1949年、新潟県生まれ。作家。代表作に『海峡を越えたホームラン』(双葉社/第7回講談社ノンフィクション賞)『坊っちゃん』の時代(双葉社/谷ロジローと共作、第2回手塚治虫文化賞)、近著に『人間晩年図巻』シリーズ(岩波書店)。

Jo Spier (ジョー・スピア/1900-1978/オランダ) による印刷物。オランダをはじめ、ドイツや中国、中には古代エジプトといった人々とそれぞれの「壊れた」ものたちが軽快なタッチで描かれた1950年代のポスターです。下段には商品の使い方が4ヶ国語で説明されています。これは一体なんの商品広告でしょうか？

オランダの蚤の市で、紙物ばかりを並べた業者さんの前を通りかかったとき、小さく折り畳まれた紙に目がとまりました。黄ばんだ薄葉紙のようで絵が透けて見えたので、そっと開けていくと出てきたのがこのカラフルでなんだか愛らしいイラストレーション。色合いもさることながら、壊れたものを前にして、飄々とした人々の表情と佇まいに心をぐっと掴まれた気がします。それと同時に私の頭に浮かんだのは、京都国立博物館で見た鎌倉時代の似絵「公家列影図」でした。

業者さんによると、ジョー・スピアは1920年代から活躍した著名なイラストレーターでありデザイナーだったとのこと。「KLM (オランダ航空) やハイネケンなど、さまざまな企業の商品広告に関わっていたんだよ」と見せてくれた古い小冊子は、今もオランダを代表するデパート de Bijenkorf に関するものでした。そして業者さんは、私が手にして離さない紙の方を指して「このユーモアがいいでしょう？」と楽しそうに言うので、大きく頷いて笑い合いました。

ポスターに描かれた人々のうち、右下の人だけがオランダ語でこう呟いています。MAAR IK ZED NINKS! IK NEEM VELPON CETA BEVER! 「まあ何も言わないさ！ 私は接着剤 (商品名 VELPON CETA BEVER) を手に取るよ！」



魚の環世界 35 魚住寧子

タイトルレタリング……ヨコカク (岡澤慶秀)

ウンベルト Umwelt Textiles & Objects
604-0962 京都市中京区夷川通
御幸町西入達磨町588-1

うおずみ・やすこ
1977年、兵庫県姫路市生まれ。Umwelt Textiles & Objects店主。学生時代にテキスタイルを学ぶため、デンマークへ留学。帰国後、古美術店に勤めたのち2012年、京都・夷川通にUmweltを開く。

オリジナリ

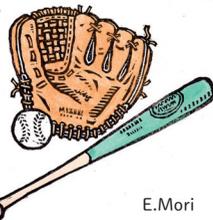
38

Originally
April 2025

『21世紀のための三島由紀夫入門』。10代のときに『金閣寺』を読んで以来、苦手だと思い込んでいた三島由紀夫。今回この仕事を通して、三島の生涯と作品に新鮮な気持ちで向き合うことができました。写真や直筆原稿を眺めていると、彼のことををどんどん知りたくなる。レイアウトを進めながら、並行して『仮面の告白』『鏡子の家』『サド公爵夫人・わが友ヒットラー』を読んだ。もっと早くに手にしていればよかった。自分にはよく分からない部分もたくさんあるけど、みんなもっと三島を読もうよ、と人に薦めたい。(赤波江)

私の運転免許の更新は3月。前回2022年は70代前半で、高齢者講習一回だけ。実地運転と視力テストや反射神経など、唐木田の自動車学校。今回は75歳以上だから、高齢者講習と認知機能検査を受けないと更新できない。講習や検査を受けられるのはどこも近くはない。三つ折りのハガキのお知らせは去年の10月。小さな文字でざっしりと検査会場や講習の場所、手続きの説明、老眼には辛い。今年もぎりぎりになった。講習は8000円で八王子の自動車教習学校に、認知検査は1050円で府中運転免許試験場へ。その後、都庁にでかけめでたく更新、2500円。免許証に手間や時間、金がかかるのに返納の圧力を感じつつ。(日下)

今月のあとがき



2025年4月15日発行 <ロゴデザイン>ヨコカク <編集・デザイン>赤波江春奈+日下潤一 <印刷・製本>グラフィック
<発行>ビーグラフィックス ©B GRAPHIX 2025, Printed in Japan 【無断転載禁止】 お問い合わせ = akabae@bgx.jp

◆Web = bgraphix.com ◆Twitter & Instagram = @bgx_book_design ◆日下潤一のブログ = www.bgx.jp/blog/
「オリジナリ」はBGXが毎月発行するフリーペーパー/100部発行

◆ロンドンブックス (京都・嵐山) ウンベルト (京都・夷川) フラヌール書店 (東京・不動前) に10部ずつ、
古瀬戸珈琲店 (東京・神保町) に5部、置いています

つぐぐち・なおひろ
1971年生まれ。「芸術新潮」カメラマン。
大阪特集の取材で「太陽の塔」の中を見学。
万博当時は「腕」内部のエスカレーターから
大屋根下の空中展示に出られたそうです。



筒口直弘 カメラと歩く8 気になる彫刻

世 田谷美術館、会期ぎりぎりの展覧会に滑り込む。入り口に向かう途中、見たことのある彫刻に気がついた。
「ここにもあったんだ…」ほんごうしん本郷新による戦没学生記念像「わだつみのこえ」。

以前『股間若衆』という本のために、鎌倉の近代美術館別館の庭で撮影したことがある。

そもそも1950年、『きけわだつみのこえ』の収益の一部をもとに戦没学生の鎮魂のために作られ、東大から建立を拒否されたのち、立命

館大学に設置されるも1969年の学園紛争時に破壊されその後再鑄造、いまは立命館大学国際平和ミュージアムにある。札幌の彫刻美術館、和歌山の市民体育館前、南あわじ市の若人の広場公園、ほかいくつもの「兄弟」がいるらしい。

均整の取れた身体で憂愁に沈むようなポーズをとる裸体青年像。

近頃街頭の裸体彫刻が各地で問題になっているようだけれど、この像に込められた意味は、この先ちゃんと伝わっていくのだろうか。

2つ先の駅のことを「あさつての駅」と言う。
1つ先だと「あしたの駅」。3つ先は「しあさつての駅」。1つ前の駅は「きのうの駅」。

例えば、こんなふうに。「あと何駅で着く？」
「え〜と、しあさつての駅で乗り換えて、そのあとは、あしたの駅で降りるよ」

我が家の最寄駅は、都内の大きな駅から2つ目の駅。あさつての駅だ。

「あさつて」とか「きのう」とか、日にちを表す言葉を覚えた頃、「うちはあさつての駅だね〜」と息子が使い始めた。訂正せずに、わたしも一緒に使った。おもしろかったから、訂正したくなかった。

小学生になり、どんどん言葉の数も使い方も上手になっていく様子を見て、「あさつての駅」は私たちの会話からあっけなく消滅するだろうと思っていたが、まだ使っている。

もっともっと小さかった頃、言葉を覚え始めた頃の「言い間違い」も、悶える愛おしさだったが、どんな言い間違いをしていたか、ぜんぜん記録しておかなかった。子どもって、いつの間にか言い間違いなくなる。当然、私の頭からもどんどん消去されいき、すっかり忘れてしまった。

そのときは、こんなに愛おしい息子の成長なんだから、記録なんかしておかなくたって、ぜったい忘れないと思っていたのだ。

幼い子どもとの生活は、毎日なにかが起きて、大波か小波か、それらを見極めて乗り越えて、子

あさつての駅へ

赤波江春奈

どもの手を離さないように、とにかく前に進む。過去をいちいち記録なんてしてられない。

もっともっと記録しておけばよかったと思う。だけど最近は、それでもいいやと思うようになってきた。ずっとつないでいた手を、ちょっとずつ離す準備。

お母さんは、自分勝手に選んだ良い思い出だけを、記憶の小箱に入れておくことにする。「あさつての駅」も、そのひとつ。

進級して小学2年生になった。宿題の算数ドリルを解きながら、不満を言う。

「なんで頭の中にあるものを、わざわざ紙に書かなきゃいけないの？ こんな計算、頭の中でできるんだから書かなくてもいいじゃん」

また偉そうなこと言っちゃって、とドリルをのぞくと、おもいきり間違えているので笑える。

「計算の答えを紙に書くのは、君に問題を解く力があることを、人に知ってもらうためだと思うよ」

書いて、残して、見せて。これから、君の頭の中をもっとお母さんに見せてね。

「あさつての駅」について、あらためて本人に尋ねてみた。ふつうは駅の数え方には使わないって知ってるよね？と。

そんなこと当然だ！という顔をして「これは、お母さんと僕との秘密の暗号でしょ？ 僕たちがどの駅で降りるか、他の人にバレないようにするための暗号」とニヤリと笑う君。

